

## 今月のトピックス

### 国際航空旅客輸送この1年

#### 1. はじめに

平成 15 年から 16 年にかけての国際航空旅客輸送は、国際情勢の影響を受け、大きく揺れ動いた。

今回はこの 1 年の国際航空旅客輸送の動向について、米国同時多発テロ発生前の平成 12 年度と主に比較しながら検証する。具体的には、イラク戦争・新型肺炎（SARS）の発生による国際航空旅客の急減と、その落ち込みからの回復の様子を検証する。また平成 16 年 1 月以降の鳥インフルエンザの影響やゴールデンウィークの動向についても触れる。

#### 2. 平成 15 年当初

国際航空旅客輸送は米国で発生した同時多発テロの影響から立ち直りつつある状況で、平成 14 年を終えた。国際航空旅客数の推移（図 1）によると、平成 14 年 12 月の本邦航空会社の国際航空旅客数は、平成 12 年度同月比-4.0%にまで回復した。方面別（アジア、米大陸、ヨーロッパ、太平洋）の国際航空旅客数の推移（図 2）からは、アジア、ヨーロッパ方面の旅客数が同時多発テロ発生前の水準に回復していることがわかる。

しかし平成 15 年を迎え、国際航空旅客数は下落傾向を示した（図 1）。2 月には米大陸方面の減少率が拡大を始めている（図 2）。同時多発テロ以前を上回る水準に回復していたアジア方面も 2 月には平成 12 年度同月比でマイナスに転じた。

これには米国のイラク攻撃が迫っているとの観測が影響していると考えられる。2 月の後半には米、英、スペインが武力行使につながる決議案を国連に提出し、徐々にイラク攻撃の危機感が高まっていた（表 1）。

#### 3. イラク戦争・SARS による打撃

3 月に米国によるイラク攻撃が開始され、同時に SARS が発生した。国際航空旅客数は平成 15 年に入り下落の一途をたどり、5 月には平成 12 年度同月比-54.3%に達した（図 1）。

国際航空旅客数の減少にまず影響を与えたのは米国によるイラク攻撃をめぐる動きであろう。3 月に入りイラク攻撃は不可避の情勢であることが連日報道され、19 日にイラク攻撃が開始された。開戦直後は連日、戦況が大きく報じられた。

それに追い討ちをかけたのが SARS の発生である。3月15日に WHO は原因不明の肺炎 SARS に対する注意報を発した。4月に入って事態は悪化し、SARS の死者数(図3)は4月の下旬から5月上旬にかけて急増した。

方面別に見るとアジア方面の旅客数は5月に同-62.0%と最大の下落率を記録している(図2)。1月には平成12年度同月比でプラスであったことを考えると、他の地域と比べて下落が際立っている。これは SARS の死者数が増大した時期と一致しており、アジア方面の旅客数がイラク戦争に加えて SARS の影響を大きく受けたと考えられる。

ここで5月の国際航空旅客の減少率に対する方面別寄与度を見ると、アジア方面の旅客数の寄与度が大きい(図1)。アジア方面の旅客数が大幅に下落したことが、国際航空旅客全体の下落に大きな影響を与えていることが見てとれる。

前年に海外旅行に出かけた人を対象にした調査(図4)において、アジアを旅行先として避けると回答した人が5月で86%、7月で95%と圧倒的に高いことからそれが裏付けられる。

#### 4. 着実な回復期

6月以降、国際航空旅客数は回復に転じた(図1)。6月に入って新たな SARS 死者数が減少し(図3)7月5日には WHO による制圧宣言が出たことが影響していると考えられる。その後も国際航空旅客数は着実に回復し、12月には平成12年度同月比-8.4%まで回復した。SARS の影響を最も受けたアジア方面も12月には同-8.8%となり、ヨーロッパ方面は平成12年度並みの水準に達している(図2)。

一方、米大陸方面の旅客数は5月から回復に転じたものの、他方面に比べると回復の動きは鈍い。北米方面は、12月でも同-18.1%に留まっている(図2)。不安定なイラク情勢の影響を受け、依然としてテロへの懸念が消えないためではないかと推測される。

#### 5. 鳥インフルエンザの影響を受けた平成16年当初

回復傾向にあった国際航空旅客数であるが、平成16年に入り減少率は再び拡大を始め、2月には大きく下落した(図1)。2月の国際航空旅客数の減少率に対しては、特にアジア方面の寄与度が大きい。

ベトナムやタイでは鳥インフルエンザによる死者が出たことが1月から伝えられており(表1)鳥インフルエンザの発生が旅客数の減少に影響しているものと考えられる。

## 6. ゴールデンウィークの旅客は回復

平成 16 年度のゴールデンウィーク期間の国際航空旅客数は、ほぼ平成 12 年度の水準に回復した（図 1）。今年のゴールデンウィークは曜日配列の関係から長期休暇が取りやすい状況にあったこともあるが、総じて国際航空旅客数は回復に向かっていると考えられる。

ゴールデンウィークの方面別国際航空旅客数の推移（図 5）によると、昨年 SARS の影響を大きく受けた中国方面の旅客数は平成 12 年度の水準を大きく上回った。同じく SARS の影響を大きく受けた東南アジア方面の旅客数は、平成 12 年度の水準には届かないものの、平成 13 年度、14 年度並みの水準に回復している。これらの地域は昨年の SARS の影響や、平成 16 年 1 月～3 月に旅客数の減少をもたらした鳥インフルエンザの影響から脱したと考えられる。

ただし米大陸方面の旅客数は平成 12 年度同期比で -21.6%であり、依然としてテロやイラク戦争の影響を受けていると推測される。

## 7. おわりに

国際情勢の変化の影響を受け大きな増減を繰り返した国際航空旅客数であるが、米国同時多発テロ発生前の状況に戻りつつある。

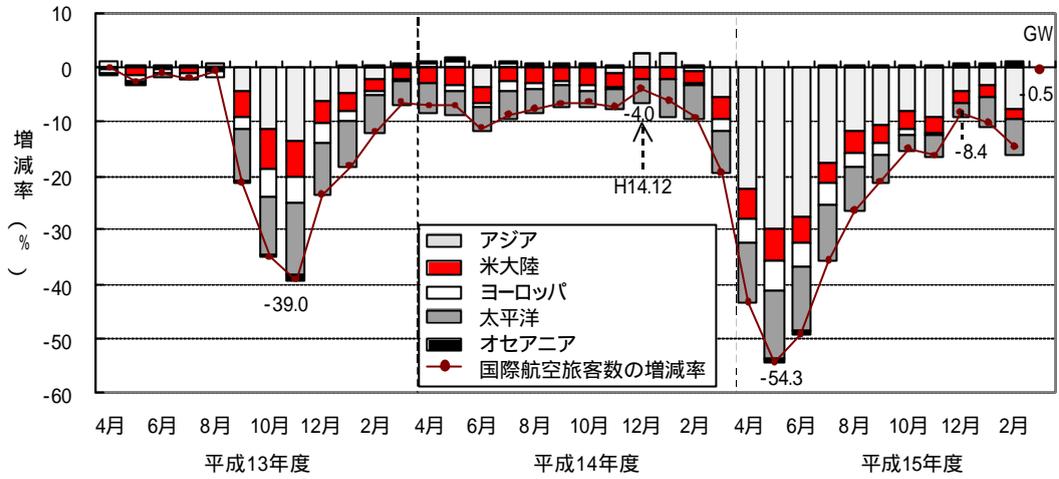
しかし、鳥インフルエンザによる死者の発生でアジア方面の旅客が減少したことからわかるように、旅客需要は感染症の発生に敏感に反応する。また米国方面の旅客はテロやイラク情勢の影響が根強く残っているものと考えられる。

国際旅客数の動向を検討する際には、変動要因となる感染症の発生と米国を中心とする各国の情勢に今後とも注視する必要がある。

表 1 平成 15 年～ 16 年の動き

月	イラク関連	SARS・鳥インフルエンザ関連
平成 15 (2003) 年		
2	24 日 対イラク武力行使決議案国連提出	
3	19 日 米英、イラク攻撃開始	15 日 WHO から SARS の「緊急情報」
4	9 日 米英軍、バグダッド制圧	2 日 WHO、中国広東省と香港への渡航延期勧告 22 日 外務省、北京への渡航延期勧告 27 日 SARS 死者 300 人突破 29 日 外務省、中国全土に渡航注意
5	1 日 米大統領がイラクの戦闘終結宣言	17 日 訪日台湾人医師、台湾で SARS 認定
7		5 日 WHO、SARS 終息宣言
8	19 日 バグダッド国連事務所で爆発	
10	30 日 国連、バグダッドから完全撤退	
11	29 日 イラクで邦人 2 外交官殺害	
12	14 日 フセイン元大統領拘束 19 日 空自にイラク派遣命令	
平成 16 (2004) 年		
1	19 日 陸自イラク派遣先遣隊、サマワ到着	5 日 WHO が中国人の SARS 感染確認 13 日 WHO、ベトナムの鳥インフルエンザによる死者発生を公表
2		15 日 タイが鳥インフルエンザによる死者発生を公表
3	11 日 スペインで列車爆破テロ 22 日 陸自イラク現地展開完了	30 日 ベトナムが鳥インフルエンザ制圧宣言
4	8 日 イラクで日本人 3 名拘束	
5		10 日 北京市、安徽省 SARS 制圧宣言

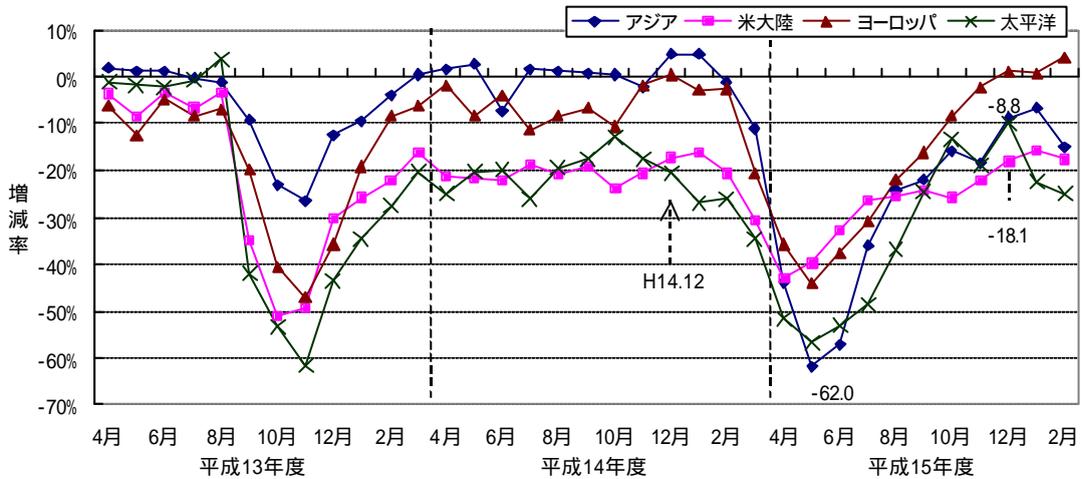
**図1 国際航空旅客数の推移と方面別寄与度  
(平成12年度同月比)**



注1 旅客数は我が国の国際航空運送事業者8社の合計  
注2：ゴールデンウィークは平成12年度同期間比

資料 航空輸送統計速報

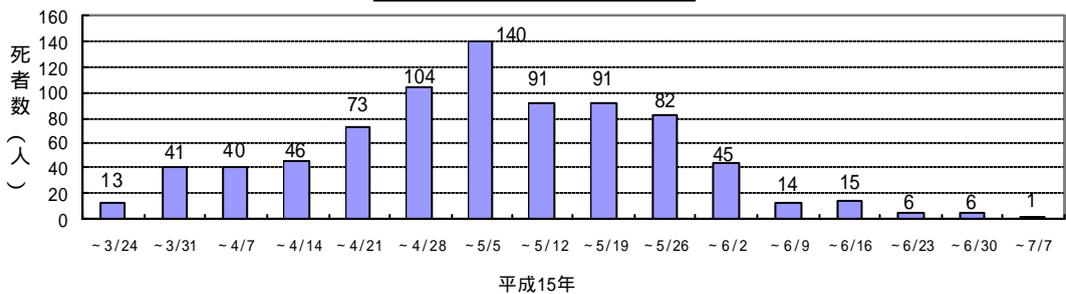
**図2 方面別国際航空旅客数の推移  
(平成12年度同月比)**



注1 旅客数は我が国の国際航空運送事業者8社の合計

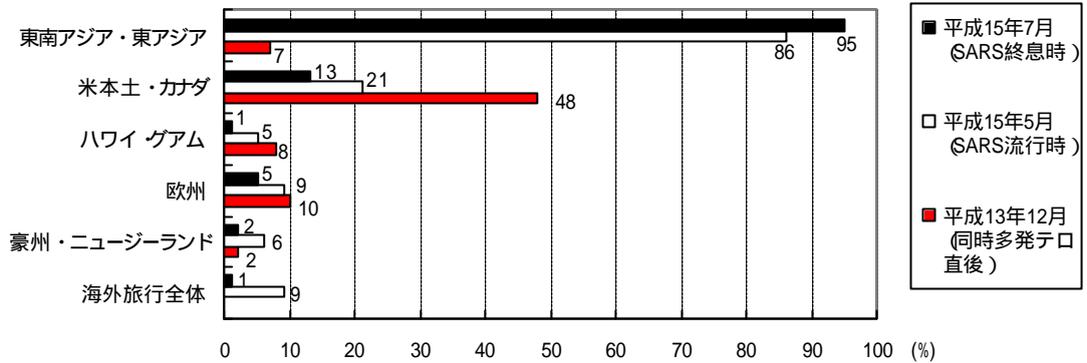
資料 航空輸送統計速報

**図3 SARSによる死者数**



資料 :WHO "Cumulative Number of Reported Probable Cases of Severe Acute Respiratory Syndrome"

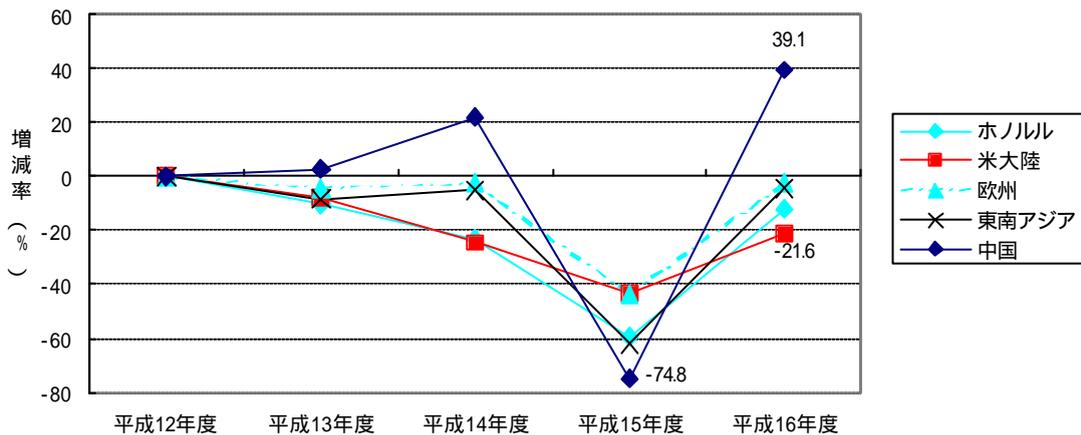
**図4 避ける旅行先**



注1 前年1年間に海外旅行をした個人200名を対象とした電話調査  
 注2 平成13年調査では「海外旅行全体」という選択肢は無かった

資料 財団法人日本交通公社  
 SARS関連旅行者意識調査結果

**図5 GW 方面別国際航空旅客数の推移 (日本航空システム)  
 (平成12年度同期比)**



注1 日本航空インターナショナル及びJALウェイズの実績による  
 注2 各年度の実績の前年度比を平成12年度比に換算した

資料 JAL GROUP NEWS ゴールデンウィーク  
 期間別輸送実績 (2001年度～2004年度)